



国立大学法人
信州大学

大学院教育学研究科学校教育専攻
大学院教育学研究科教科教育専攻

平成19年度採択 大学院教育改革支援プログラム

授業研究アリーナで 共創する「臨床の知」

—教科専門と教科教育のチーム指導体制で高める現職教員の教科指導力—

本プログラムは、専門教科の学問的知識・能力に裏打ちされた授業研究により、アクション・リサーチができる現職教員の授業展開力を一層向上させる大学院を実現することを目的とする。教科専門教員と教科教育教員から構成される大学院教員チームが現職教員である大学院学生を指導することにより、教科専門教員の「理論知」、教科教育教員の「実践知」、現職教員の「経験知」が交流し響きあって、新たな「臨床の知」を生み出し共有する「授業研究アリーナ」が創出される。授業の設計、実施、省察の過程に、大学院教員チームが協働的に参与することを通して、教科専門教員はその教科の基盤となる学問領域の基本概念・方法の観点から、教科教育教員は教科の目的論、内容・方法論、教材論の観点から、授業案を検討し、授業を観察し、授業過程を分析する。本プログラムによって、現職教員は、実践者かつ研究者という立場で、高度な専門性に支えられた自己の教育活動を研究対象として、教員集団内であるいは研究者と協働しながら教育実践研究を進めることができるようになる。

教育プログラムの大学全体としての位置づけ

教育目標

自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てる

教育学研究科の理念

「臨床の知」の具現化

大学院教育の成果に関する具体的目標

- ・高度専門職業人に必要な能力を育成
- ・研究者に必要な能力を育成

本プログラムの目的

専門教科の学問的知識・能力に裏打ちされた授業研究による、アクション・リサーチができる現職教員の授業展開力の向上

学校現場と社会のニーズに対応した大学院教育の改革
(学校現場で中核となる研究的・省察的専門家の養成)

研究科・専攻における教育の課程

教育学研究科の目的

- ・創造性豊かな研究能力の育成
- ・高度な実践的指導力の育成
- ・教育専門職者の再教育による資質向上

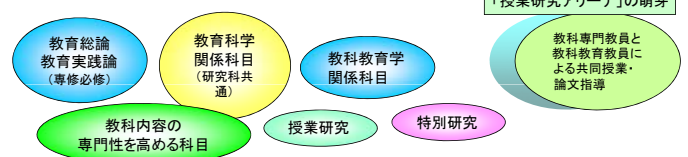
教育学研究科のアドミッション・ポリシー

- ・学校や地域の多様な教育事象を科学的に研究できる人
- ・自らの教育実践を持続的に見直すことができる人
- ・教育実践の場で指導的な立場に立てる人

研究科の教育組織

専攻	学校教育専攻	教科教育専攻
専修	学校教育 教育学 教育心理学 障害児教育学 幼児教育学	臨床心理学 国語教育・社会科教育・数学教育・理科教育 音楽教育・美術教育・保健体育・技術教育 家政教育・英語教育

研究科の教育課程



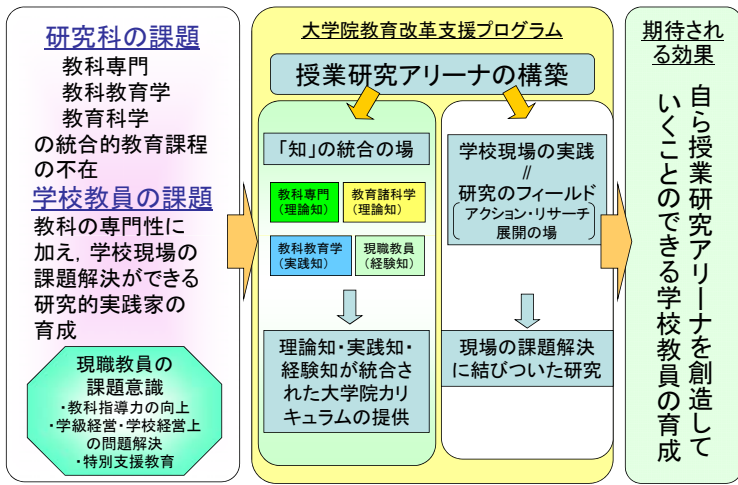
<連絡先> 信州大学教育学部 大学院GP事務室 〒380-8544 長野県長野市西長野6-1
電話・FAX (026)238-4019 E-mail: erinsho-gs@shinshu-u.ac.jp

授業研究アリーナで共創する「臨床の知」

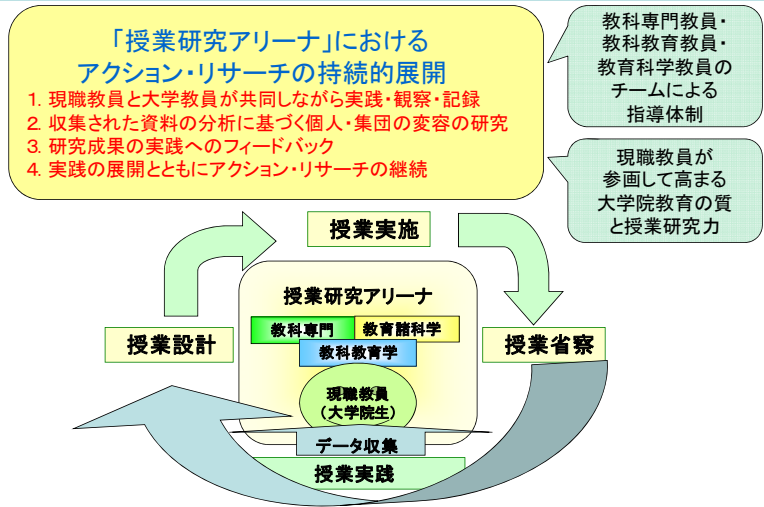
—教科専門と教科教育のチーム指導体制で高める現職教員の教科指導力—



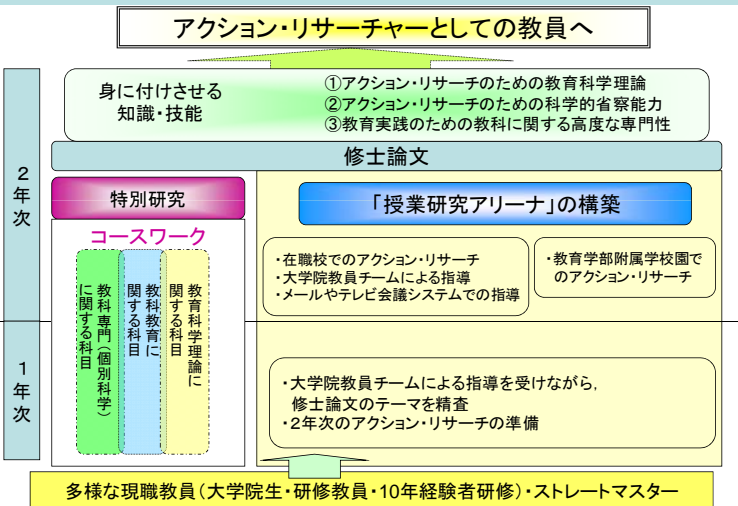
教育プログラムの計画: 全体概要



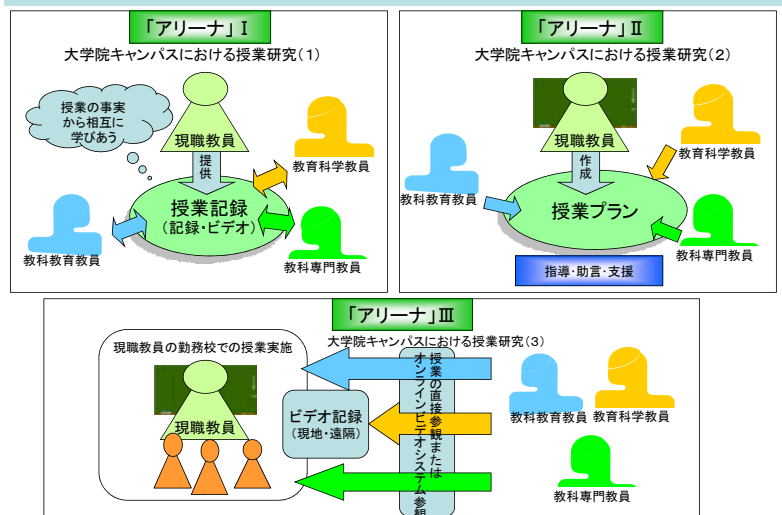
本プログラムの特徴



教育プログラムの計画: 履修プロセスの概念図



「授業研究アリーナ」の運用の模式図



「通常の研究」と「アクション・リサーチ」の違い

通常の研究		アクション・リサーチ
学校教員	授業実施者	学校教員
大学研究者	授業分析者	学校教員 (大学研究者の指導)
学校教員に指導・助言	授業立案	学校教員 (大学研究者の指導)
指導・助言を通して 論文・著作を通して	成果還元	自分の実践を通して



期待される成果

- 大学院教育の改革プログラムの実施
1. 授業研究アリーナの構築
 2. アクション・リサーチの大学院における実践

- 本プログラムの期待される成果
1. 自己の実践を研究的に省察できる現職教員の育成 (アクション・リサーチャーとしての教員)
 2. 大学院教育の実質化 (学位認定の厳格化, 多彩な授業方法, 課題解決型授業)
 3. 現場や地域のニーズに対応した大学院プログラム (夜間開講, 遠隔会議システムを用いた講義・演習・論文指導, e-Learning による授業)
 4. 教育学研究科担当教員の意識改革 (FD, S D, TAの質の向上)

専門教科の学問的知識・能力に裏打ちされた授業研究による、アクション・リサーチができる現職教員の授業展開力の向上